



三浦綾子読書会 特別講演会

入場無料！
どなたも歓迎！

演 題

小説『夕あり朝あり』のメッセージ②

かんなん ひけつ
～ 艱難を乗り越える人生の秘訣～

日 時

2026年2月14日(土) 15:00 - 17:00

※16:30 頃終了、ティータイムあり(自由参加)～17:00 頃まで

※三浦綾子読書会のための自由献金の時も持ちます。

※問い合わせ(講師まで):04-2939-8470(FAX)、toyoshi@io.ocn.ne.jp

講 師

は せ が わ よ し み つ
長谷川 与志充 牧師

三浦綾子読書会 顧問

人はたとい全世界を手に入れても、
まことのいのちを損じたら、
何の得がありましょう。
— 聖書 —



1967年、岩手県生まれ。東京外国語大学卒。少年時代、6年間もの「いじめ」という生き地獄をくり抜け、そこから解放されたのも束の間、「生きることの難しさ」という別の生き地獄に陥る。三浦綾子の『塩狩峠』を通して神の愛を知った中学時代、イエス・キリストを信じる。その後、三浦綾子との個人的な出会いなどを通して牧師となる。「三浦綾子読書会」を立ち上げ、全国各地に展開。現在、東京 JCF(御茶ノ水)の協力牧師。著書に『ドラマティック・ゴッド—三浦綾子さんとの出会いから』(イーグレ—)がある。埼玉県所沢市在住。妻、三男一女の子供達との六人家族。

著者と作品について

■三浦綾子(みうらあやこ)さんについて ※三浦綾子読書会 (<https://www.miura-ayako.com/ayako.html>)より引用(一部改変)

1922年北海道旭川市生まれ。17歳で小学校の教師になる。「軍国」教師として懸命に教えたことから、終戦後、大きな絶望に陥った。自殺未遂、そして結核、脊椎カリエス発病による13年にわたる闘病中、幼馴染みのクリスチャン前川正を通してイエス・キリストに出会い、洗礼を受ける。前川亡きあと現れた三浦光世の祈りに支えられて奇跡的に癒された綾子さんは、結婚後、雑貨店を営みながらはじめて書いた一千万円懸賞小説『氷点』で作家デビュー。以降1999年の召天(逝去)まで、多くの病と闘いながら、人々に神の愛を語り、生きる勇気と希望を与える80冊以上の作品を書き続けた。総発行部数4200万部以上、世界十数カ国語で読まれている。『氷点』以外に『塩狩峠』『道ありき』『細川ガラシャ夫人』『泥流地帯』『海嶺』『ちいさな先生物語』『千利休とその妻たち』『われ弱ければ』『愛の鬼才』などがある。

■小説『夕あり朝あり』(新潮文庫)について ※同書籍裏表紙掲載 作品概要(引用)

8ヶ月で生母と別れ、5歳で養子になった五十嵐健治は、一攫千金を夢見て16歳で家を出た。日清戦争の軍夫、北海道のタコ部屋暮らし、三越百貨店の宮中係と、波瀾万丈の道を歩んだ彼は、キリスト教信仰に目覚め、人の垢を洗うクリーニング業に辿り着く。日本初のドライ・クリーニングの開発、戦時中の宗教弾圧との闘い。熱烈な信仰に貫かれた、クリーニングの〔白洋舎〕創業者の生涯。

会 場 東海キリスト教会

(駐車場あり)

TEL. (0562)32 - 2065

東海市加木屋町旭 18

(船島小学校の南隣)



※当教会は、エホバの証人(ものみの塔)、モルモン教、統一協(教)会ではありません。